

【Q】60代の女性です。最近、義父の物忘れがひどく認知症が心配です。私はどうしたらよいでしょうか。

【A】高齢になるに従い、認知症という病に不安を感じる方は少なくありません。これは認知症の初期症状が物忘れから始まる例が多いからです。しかし、年齢的な物忘れと認知症の物忘れ（記憶障害）には大きな



6

義父の認知症が心配



まえはら
みさひろ
前原 操

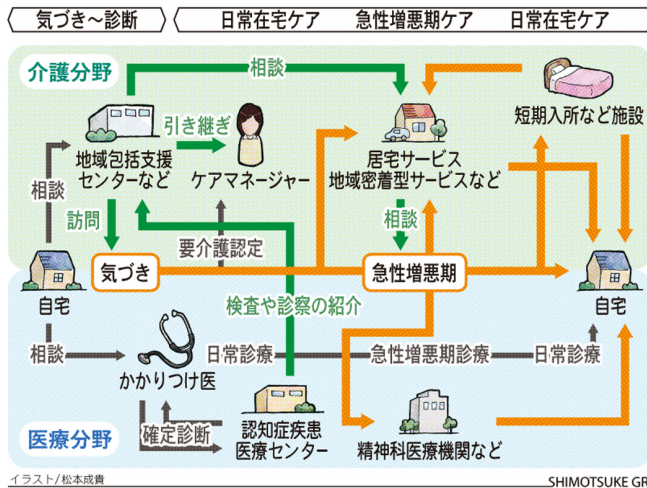
違いがあります。認知症には必ず見られる症状（中核症状）と個人差のある行動・心理症状（BPSD）があります。身内の方が「認知症ではないか」と気付いたら、家族の方はかかりつけ医がいれば相談してみてもいいでしょうか。かかりつけ医から認知症疾患医療センターに紹介してもらい、確定診断が得られれば申し分ありません。しかし、かかりつけ医のいない場合などでは近くの地域

包括支援センター等に相談することも一つの方法です。国は表のごとく標準的な認知症ケアパスの概念図を示しています。今や認知症はよく見られる病です。65歳以上の高齢者のうち認知症を発生している人は推計15%で、2012年時点で約462万人に上ることが明らかにされています。認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）の高齢者も約400万人いると推定されています。65歳以上の4人に1人が認知症とその予備群となる計算です。

認知症ケアの要点は、

県医師会副会長。前原医院（壬生町）院長。東京医科大卒。67歳。

専門機関で確定診断を



何よりも安心できる快適な居場所を作つてあげることで、不安な気持ちと共感しその解決をめざすこと。一人の「人」として尊重し、その人の視点や立場に立つて理解すること。また、不穏や不眠などの症状には本人の生活能力をあまり落とさずに、薬の効果も十分に期待できるように努めていきます。

現在、認知症の診断や治療は専門医のみならず身近な診療所の医師も可能になるように研修会も多く行われています。また医師会を中心に

相談できる医療機関名のご案内もされるよう準備されてきています。今、困っている方は、かかりつけ医、地域包括支援センターや医療福祉・行政の相談窓口にお問い合わせはいかがでしょうか。

（第2、4金曜日掲載）

ドクターへの質問を募集します。お寄せいただいた中から毎月2件、紙面で回答します。病気の症状や経過などをなるべく詳しく書いてください。名前（匿名可）、年齢、性別、連絡先（住所、電話番号）を明記し、〒320-0866、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。FAX（028・625・1185）、メール（dotoko@shimotsuke.co.jp）でも受け付けます。